

伊集院保健所感染症情報

2025年第12週（令和7年3月17日～令和7年3月23日）

【お問い合わせ先】 〒899-2501 鹿児島県日置市伊集院町下谷口 1960-1 鹿児島地域振興局保健福祉環境部（伊集院保健所）

TEL (099) 273-2332 / FAX (099) 272-5674 / E-mail kago-kenko-shippe@pref.kagoshima.lg.jp

鹿児島地域振興局 URL <http://www.pref.kagoshima.jp/ak01/chiki/kagoshima/index.html>

● 定点把握感染症

定点医療機関【インフルエンザ5，小児科3，基幹定点1】

疾患名	警報基準値		注意報	伊集院保健所管内					県	
	開始	終息	基準値	第9週	第10週	第11週	第12週	先週からの増減	第11週	前週からの増減
インフルエンザ	30	10	10	0.60	0.20	0.40	2.00	↗	1.13	↘
COVID-19	—	—	—	4.00	1.60	2.20	2.60	↗	2.10	↘
咽頭結膜熱	3	1	—	1.67	0.33	0.33	1.00	↗	1.10	↘
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	—	3.00	3.00	4.00	3.33	↘	2.88	↘
感染性胃腸炎	20	12	—	8.67	6.67	10.67	6.00	↘	17.88	↗
水痘	2	1	1	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.18	↘
手足口病	5	2	—	0.00	1.00	0.00	0.00	→	0.04	↘
伝染性紅斑	2	1	—	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.30	↗
突発性発しん	—	—	—	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.26	↘
ヘルパンギーナ	6	2	—	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.00	↘
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.02	→
R S ウイルス感染症	—	—	—	1.33	1.33	3.33	4.33	↗	3.74	↗

※警報域：太文字で赤色の塗りつぶし， 注意報域：太文字で黄色の塗りつぶし

● TOPIC 日本国内で麻しん患者の報告数が増加しています。

国立感染症研究所の2025年第10週（3月3日～3月9日）の速報データによる全国の麻しんの患者報告数は12人で、兵庫県、神奈川県、山口県などから報告されています。また、2025年度に入ってから累計患者報告数は、22人となっており、これは、2024年の累計患者報告数45人の約半数を3月上旬で超えそうな勢いです。

麻しんは、麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症で感染力がとても強く、空気感染、飛沫感染、接触感染で広がります。主な症状としては、高熱や全身の発疹、せき、鼻水、目の充血などの症状がでます。麻しんによる肺炎や脳炎、さらには罹患後、亜急性硬化性全脳炎などの重篤な合併症になり、先進国であっても1,000人に1人が死亡するといわれています。

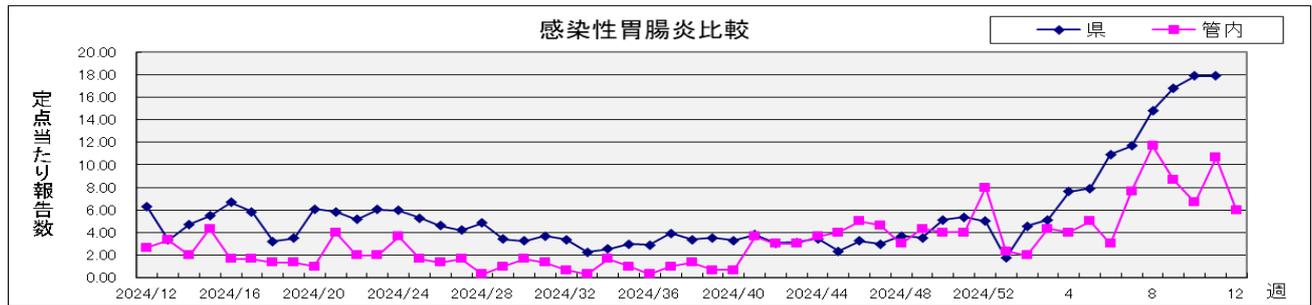
世界においては、2022年以降報告数が増加しています。主な報告地域は、東南アジア地域、東地中海地域、アフリカ地域、ヨーロッパ地域です。今後、流行地域との往来がすすむと、いずれは国内でも感染拡大することにつながります。特に、2025年4月から開催される大阪・関西万博については、開催期間が10月までの約半年間となるため、海外からの来訪客が長期的に増加するので注意が必要です。

医療機関におかれましては、発熱や発疹の患者が受診した場合、麻しんの可能性を念頭に置き、海外渡航歴及び国内旅行歴、麻しんの罹患歴及び予防接種歴を確認するなど、麻しんの発生を意識した診療をお願いします。

臨床症状から麻しんと診断した場合は、直ちに保健所へ届出を出し、診断においては、血清IgM抗体検査等の測定を実施するとともに、PCR等の実施のため検体（全血（EDTA採血）、尿、咽頭拭い液）の確保をお願いします。

● 注意すべき感染症

・ 感染性胃腸炎



第12週の伊集院保健所管内における感染性胃腸炎の報告数は、前週の32人（定点当たり10.67）から14人少ない18人（定点当たり6.00）でした。年齢別では、20歳以上（9人）、5歳・9歳（各2人）、6ヶ月～11ヶ月（1人）、1歳・3歳・10～14歳・15～19歳（各1人）の順に多い報告でした。

感染性胃腸炎とは、細菌やウイルスなどの病原体による感染症で、年間を通して流行します。

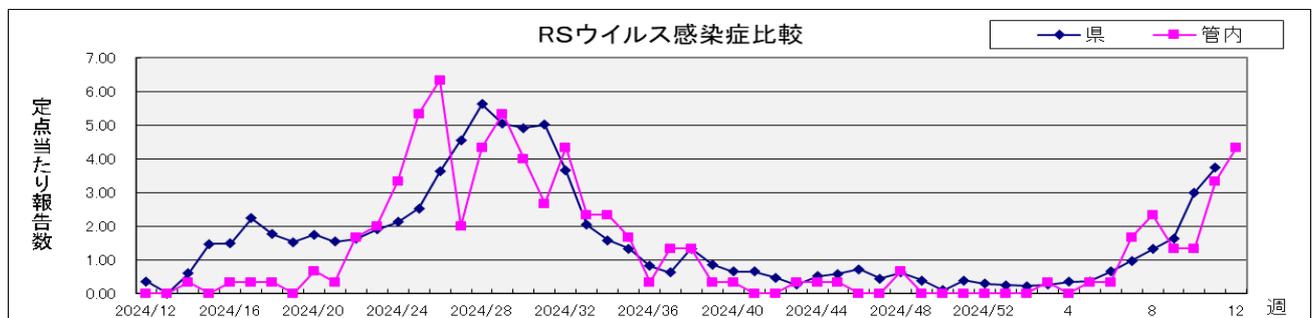
原因となる病原体には、ノロウイルス、ロタウイルスなどのウイルスのほか、細菌や寄生虫などもあります。

感染経路は、病原体が付着した手で口に触れることによる感染（接触感染）、汚染された食品を食べることによる感染（経口感染）があります。潜伏期間は1～3日程度です。ノロウイルスによる胃腸炎では、主な症状は吐き気、おう吐、下痢、発熱、腹痛であり、有症期間は平均24～48時間です。

感染予防としては、トイレの後、調理、食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

また、ノロウイルス等の便やおう吐物を処理する時は、次亜塩素酸ナトリウム液を用い、手袋、マスク、エプロンを着用し、処理しましょう。なお、カキなどの二枚貝を調理するときは、中心部まで十分に加熱しましょう。

・ RSウイルス感染症



第12週の伊集院保健所管内におけるRSウイルス感染症の報告数は、前週の10人（定点当たり3.33）から3人多い13人（定点当たり4.33）でした。年齢別では、0～5ヶ月未満・6ヶ月～11ヶ月（各4人）、2歳・3歳（各2人）、1歳（1人）の順に多い報告でした。

RSウイルス感染症は、感染してから2～8日、典型的には4～6日間の潜伏期間を経て発熱、鼻汁などの症状が数日続きます。多くは軽症で自然軽快しますが、咳がひどくなる、喘鳴が出る、呼吸困難となるなどの症状が出現することもあり、場合によっては、細気管支炎、肺炎へと進展していきます。特に、早産児や生後6ヶ月未満での感染では重症化することがありますので、注意が必要です。

感染予防対策としては、流水・石鹸による手洗い、またはアルコール製剤による手指衛生が重要です。

○学校における感染症による出席停止の状況3/17～3/23（出典：学校等欠席者・感染症情報システム）

第12週の出席停止については、インフルエンザ患者が15人（内訳：非型別インフルエンザが13人、インフルエンザB型が2人）、感染性胃腸炎が3人、溶連菌感染症3人、マイコプラズマ感染症2人、COVID-19が2人報告されています。

自治体名	インフルエンザ	インフルエンザB型	感染性胃腸炎	溶連菌感染症	マイコプラズマ感染症	新型コロナ感染症
日置市	13	2	2	3	2	2
いちき串木野市	0	0	1	0	0	0
三島村	0	0	0	0	0	0
十島村	0	0	0	0	0	0
計	13	2	3	3	2	2